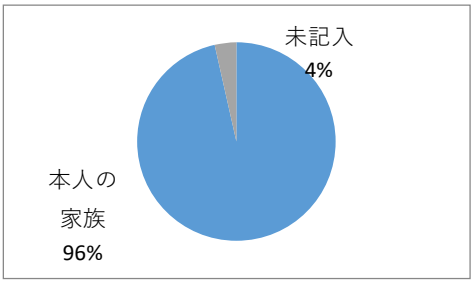
障がい福祉計画アンケート集計結果(児童)

資料１０

発送数　200 件　返送率　42.0%
返送数　84 件

【回答者内訳】

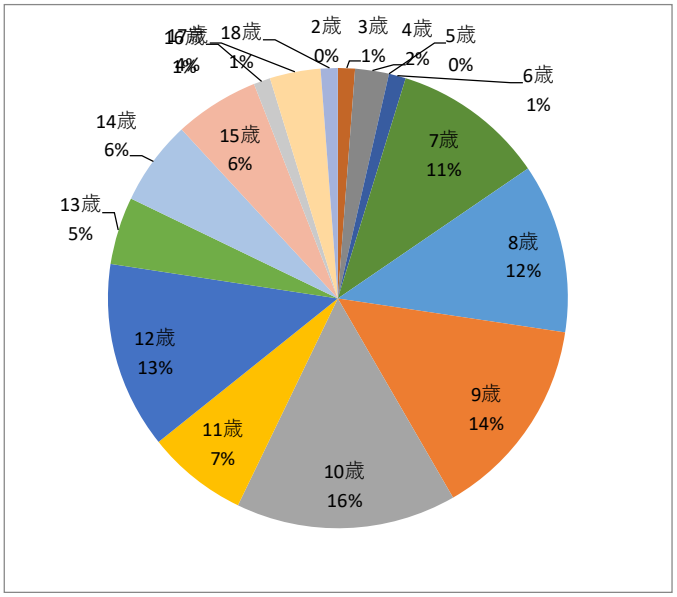
	人数	割合
本人の家族	81	96.4%
家族以外の介助者	0	0.0%
未記入	3	3.6%
合計	84	100.0%



1　子どもの性別・年齢・家族などについて

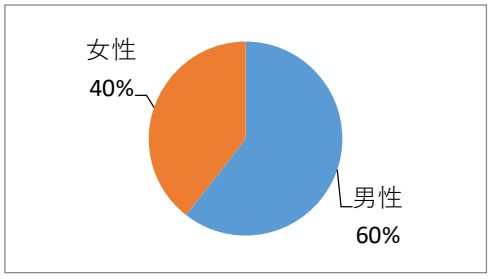
1-1　子どもの年齢

年齢	人数	割合
2歳	0	0.0%
3歳	1	1.2%
4歳	2	2.4%
5歳	0	0.0%
6歳	1	1.2%
7歳	9	10.7%
8歳	10	11.9%
9歳	12	14.3%
10歳	13	15.5%
11歳	6	7.1%
12歳	11	13.1%
13歳	4	4.8%
14歳	5	5.9%
15歳	5	5.9%
16歳	1	1.2%
17歳	3	3.6%
18歳	1	1.2%
合計	84	100.0%



1-2　子どもの性別

性別	人数	割合
男性	49	60.5%
女性	32	39.5%
合計	81	100.0%

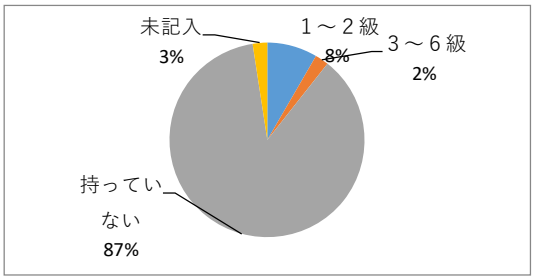


対象者のほとんどが７歳～１８歳で、９５％を占めている。男女比は、男性が６０％、女性が４０％となっている。

2　障がいの状況

2-1　身体障害者手帳の有無

	人数	割合
1～2級	7	8.3%
3～6級	2	2.4%
持っていない	73	86.9%
未記入	2	2.4%
合計	84	100.0%

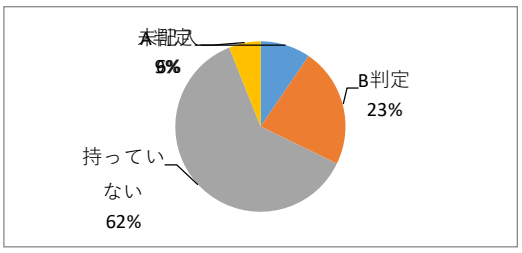


2-2　主たる障がい

	肢体不自由	視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・咀嚼	内部障がい	未記入
人数	6	0	2	0	0	1	0
割合	7.1%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%

2-3　療育手帳の有無

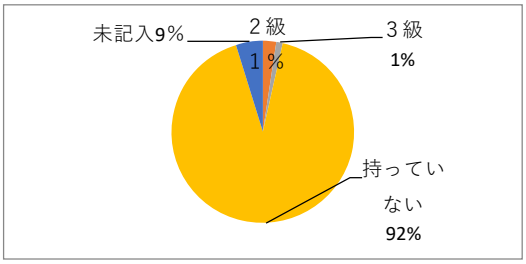
	人数	割合
A判定	8	9.5%
B判定	19	22.6%
持っていない	52	61.9%
未記入	5	6.0%
合計	84	100.0%



身体障害者手帳を持っているのは９人（回答者の１１％）、療育手帳は２７人（回答者の３２％）。そのうち、身体障害者手帳と療育手帳の両方を持っているのは３人で、いずれも身体障害者手帳は１～２級であ

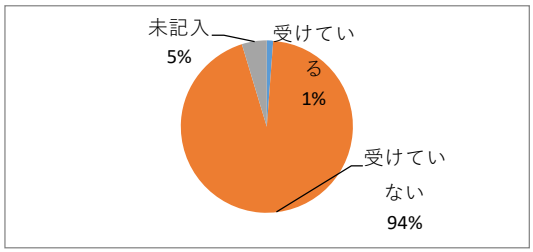
2-4　精神保健福祉手帳の有無

	人数	割合
1級	0	0.0%
2級	2	2.4%
3級	1	1.2%
持っていない	77	91.6%
未記入	4	4.8%
合計	84	100.0%



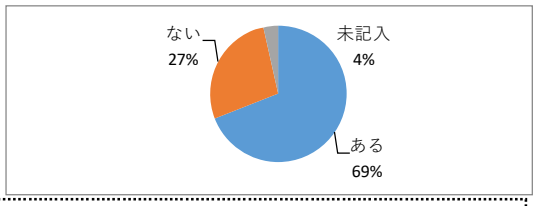
2-5　難病の認定

	人数	割合
受けている	1	1.2%
受けていない	79	94.0%
未記入	4	4.8%
合計	84	100.0%



2-6　発達障がいの有無

	人数	割合
ある	58	69.0%
ない	23	27.4%
未記入	3	3.6%
合計	84	100.0%



発達障がいの診断を受けている５８人のうち、療育手帳を持っている人が２２人おり、Ａ判定は５人、

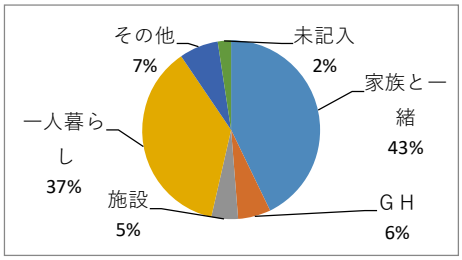
2-7　医療的ケア

	気管切開	人工呼吸	吸入	吸引	経鼻栄養	IVH
人数	0	0	1	0	1	0
割合	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	1.2%	0.0%
	在宅酸素	透析	道尿・留カテ	ストマ	その他	未記入
人数	2	0	0	0	1	0
割合	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%

3　住まいや暮らし

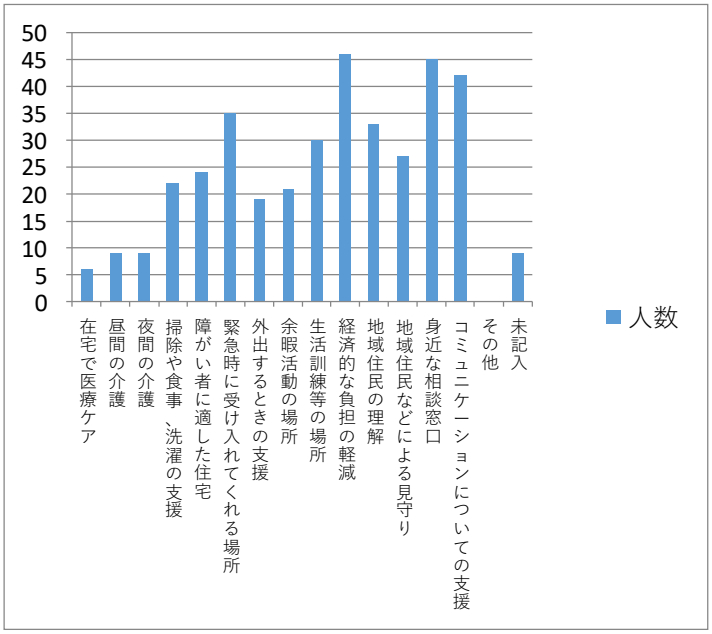
3-1　将来の地域での生活

	人数	割合
家族と一緒	36	42.8%
GH	5	6.0%
施設	4	4.8%
一人暮らし	31	36.9%
その他	6	7.1%
未記入	2	2.4%
合計	84	100.0%



3-2　地域での支援(複数回答可)

	人数	割合
在宅で医療ケア	6	7.1%
昼間の介護	9	10.7%
夜間の介護	9	10.7%
掃除や食事、洗濯の支援	22	26.2%
障がい者に適した住宅	24	28.6%
緊急時に受け入れてくれる場所	35	41.7%
外出するときの支援	19	22.6%
余暇活動の場所	21	25.0%
生活訓練等の場所	30	35.7%
経済的な負担の軽減	46	54.8%
地域住民の理解	33	39.3%
地域住民などによる見守り	27	32.1%
身近な相談窓口	45	53.6%
コミュニケーションについての支援	42	50.0%
その他	0	0.0%
未記入	9	10.7%

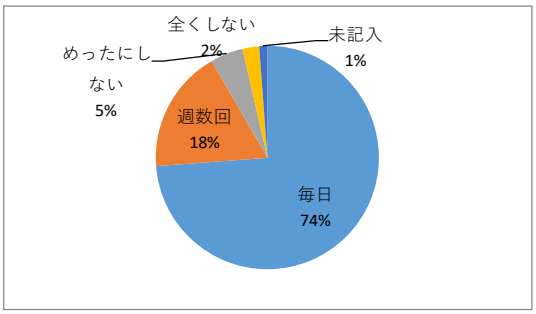


将来の住まいは、グループホームも含めると、地域生活を希望する人が８割以上を占めている。また、地域生活するために必要な支援としては、「経済的な負担の軽減」「身近な相談窓口」「コミュニケーションについての支援」を希望する割合が５０％を超え前回のアンケートと変わらない結果となった。

4　日中活動や就労について

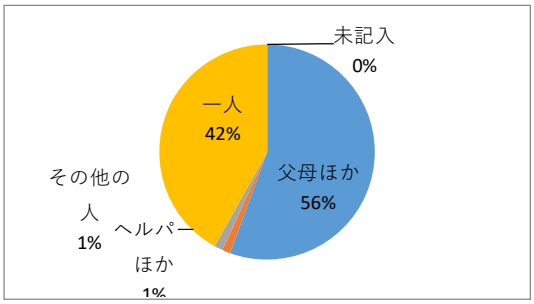
4-1　外出頻度

	人数	割合
毎日	62	73.8%
週数回	15	17.9%
めったにしない	4	4.7%
全くしない	2	2.4%
未記入	1	1.2%
合計	84	100.0%



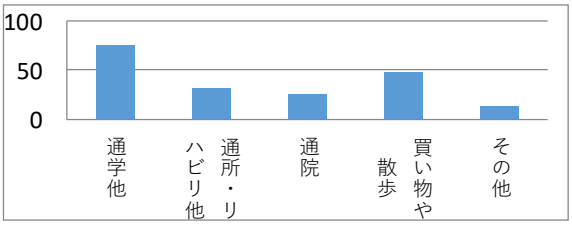
4-2　外出時の同伴者

	人数	割合
父母ほか	45	55.6%
ヘルパーほか	1	1.2%
その他の人	1	1.2%
一人	34	42.0%
未記入	0	0.0%
合計	81	100.0%



4-3　外出目的(複数回答可)

	人数	割合
通学他	75	38.7%
通所･リハビリ他	32	16.5%
通院	26	13.4%
買い物や散歩	48	24.7%
その他	13	6.7%



ほとんどの人が通学等で週に複数回外出している状況にある。一人で外出している人も３４人おり、その内訳は、７～１２歳が２５人、１３～１８歳が９人であった。

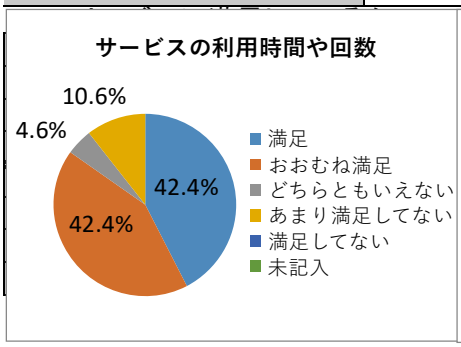
5　障がい福祉サービス等の利用

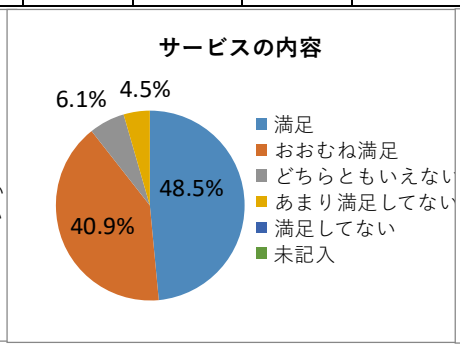
5-1　サービス利用

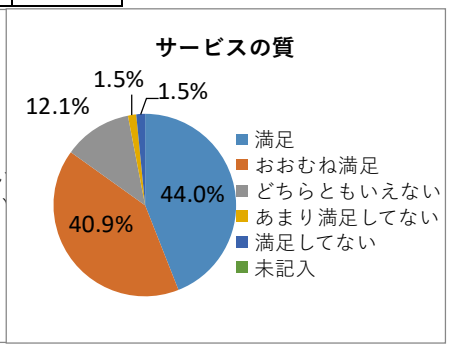
	利用している	今後利用したい	利用したくない	未記入
人数	66	10	6	2
割合	78.6%	11.9%	7.1%	2.4%

5-2　サービスに満足しているか

	サービスに満足しているか					
	満足	おおむね満足	どちらとも言えない	あまり満足していない	満足してない	未記入
①利用時間や回数	28	28	3	7	0	0
	42.4%	42.4%	4.6%	10.6%	0.0%	0.0%
②サービスの内容	32	27	4	3	0	0
	48.5%	40.9%	6.1%	4.5%	0.0%	0.0%
③サービスの質	29	27	8	1	1	0
	44.0%	40.9%	12.1%	1.5%	1.5%	0.0%

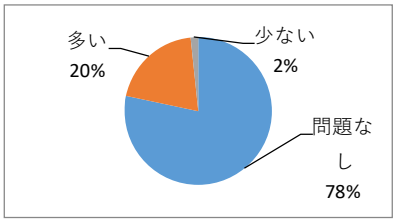






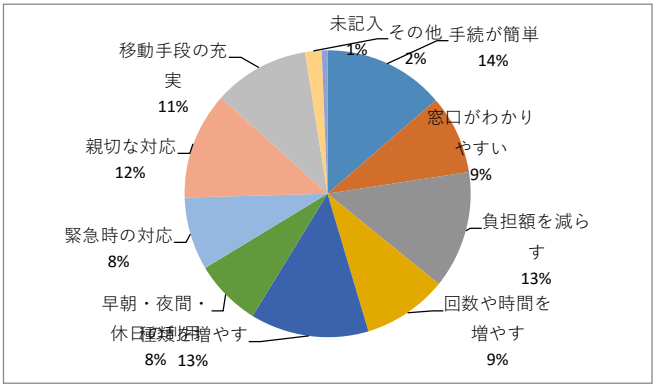
5-3　サービスの利用者負担額について

	問題なし	多い	少ない
人数	47	12	1
割合	78.3%	20.0%	1.7%



5-4　サービスを利用しやすくするために必要だと思うこと（複数回答可）

	人数	割合
手続が簡単	43	51.2%
窓口がわかりやすい	28	33.3%
負担額を減らす	42	50.0%
回数や時間を増やす	30	35.7%
種類を増やす	42	50.0%
早朝・夜間・休日の利用	24	28.6%
緊急時の対応	26	31.0%
親切な対応	38	45.2%
移動手段の充実	34	40.5%
その他	6	7.1%
未記入	2	2.4%



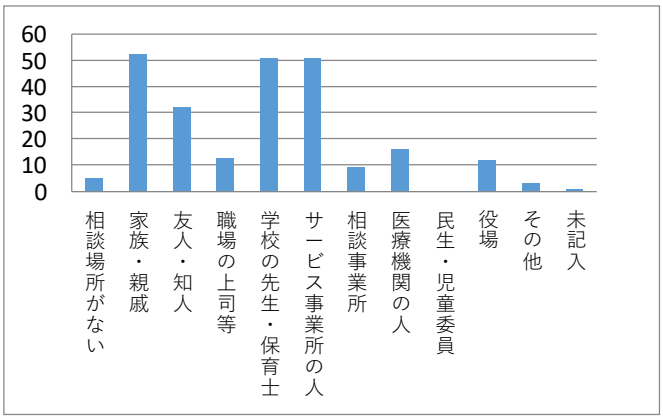
サービスを利用している66人のうち、サービスに満足しているのは、おおむね満足を含めると、8割以上の人が理解をしている。

また、サービスを利用するために必要なことは、「手続が簡単であること」「負担額を減らす」「種類を増やす」を必要とする声が多く、18歳以上のサービス利用者と似たような結果となった。

６ 相談相手

6-1 相談相手(複数回答可)

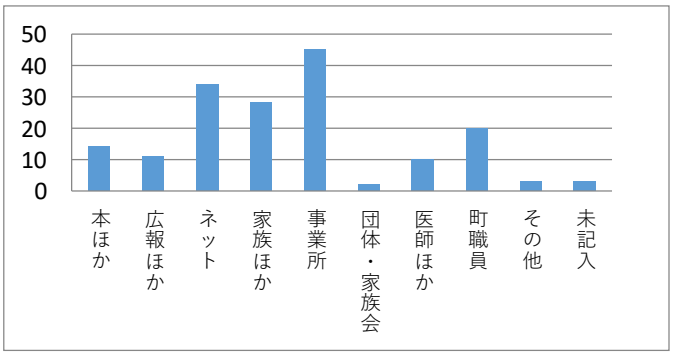
	人数	割合
相談場所がない	5	6.0%
家族・親戚	52	61.9%
友人・知人	32	38.1%
職場の上司等	13	15.5%
学校の先生・保育士	51	60.7%
サービス事業所の人	51	60.7%
相談事業所	9	10.7%
医療機関の人	16	19.0%
民生・児童委員	0	0.0%
役場	12	14.3%
その他	3	3.6%
未記入	1	1.2%



相談相手は、「家族や親せき」が最も多く、次に「学校の先生や保育士」「サービス事業所の人」が同数

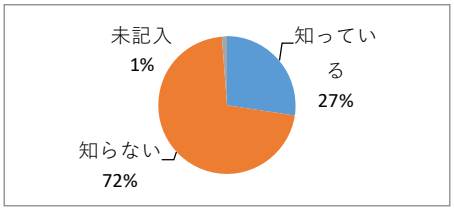
6-2 情報を得る先(複数回答可)

	人数	割合
本ほか	14	16.7%
広報ほか	11	13.1%
ネット	34	40.5%
家族ほか	28	33.3%
事業所	45	53.6%
団体・家族会	2	2.4%
医師ほか	10	11.9%
町職員	20	23.8%
その他	3	3.6%
未記入	3	3.6%



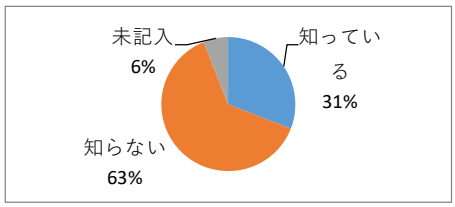
6-3 基幹相談支援センターを知っていますか

	人数	割合
知っている	23	27.4%
知らない	60	71.4%
未記入	1	1.2%
合計	84	100.0%



6-4 相談支援事業所を知っていますか

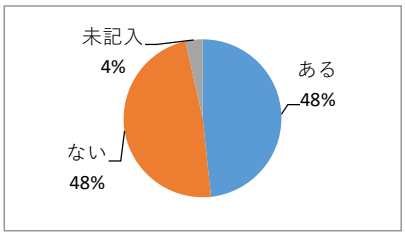
	人数	割合
知っている	26	31.0%
知らない	53	63.1%
未記入	5	5.9%
合計	84	100.0%



基幹相談支援センターを知らないと回答した人が７１.４％で、前回の結果（７２.８％）と比較すると、若干減少する結果となった。また、相談支援事業所を知らないと回答した人は６３.１％で、前回の結果（６１.２％）と比較すると、若干増加する結果となったが、どちらも今後も更に周知が必要である。

6-5　相談経験

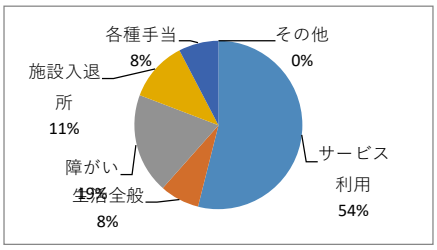
	人数	割合
ある	14	48.3%
ない	14	48.3%
未記入	1	3.4%
合計	29	100.0%



6-6　相談内容(複数回答可)

	人数	割合
サービス利用	14	53.8%
生活全般	2	7.7%
障がい	5	19.2%
施設入退所	3	11.5%
各種手当	2	7.7%
その他	0	0.0%

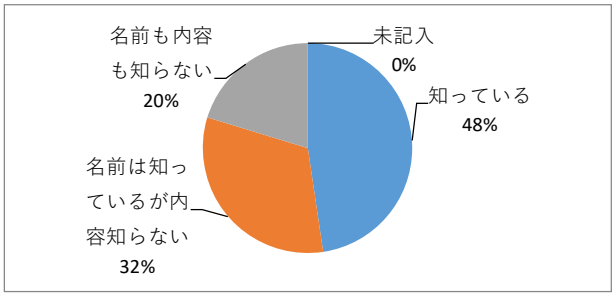
※相談経験があると回答した14人から割合を算出した。



7　権利擁護

7-1　成年後見制度

	人数	割合
知っている	40	47.6%
名前は知っているが内容知らない	27	32.2%
名前も内容も知らない	17	20.2%
未記入	0	0.0%
合計	84	100.0%



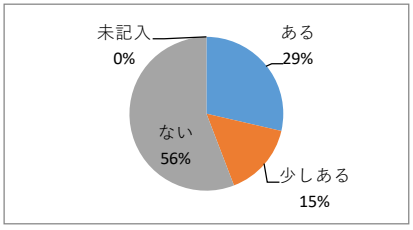
7-2　成年後見制度利用の希望

	人数	割合
利用したい	16	19.0%
利用は希望しない	13	15.5%
わからない	55	65.5%
未記入	0	0.0%
合計	84	100.0%

成年後見制度を「名前も内容も知っている」「名前は知ってる」と回答した人は全体の８０％程度であった。18歳以上のアンケート結果では６０％程度であることから、児童の保護者への制度

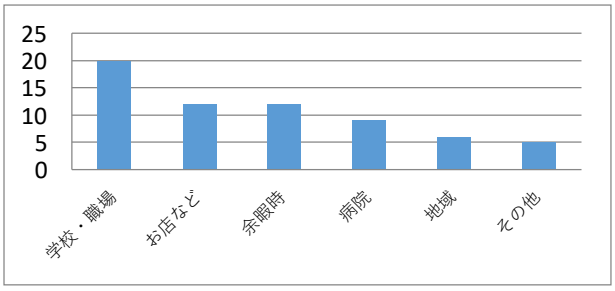
7-3　嫌な思いをしたこと

	人数	割合
ある	24	28.6%
少しある	13	15.4%
ない	47	56.0%
未記入	0	0.0%
合計	84	100.0%



7-4　場所(複数回答可)

	人数	割合
学校・職場	20	31.3%
お店など	12	18.7%
余暇時	12	18.7%
病院	9	14.1%
地域	6	9.4%
その他	5	7.8%

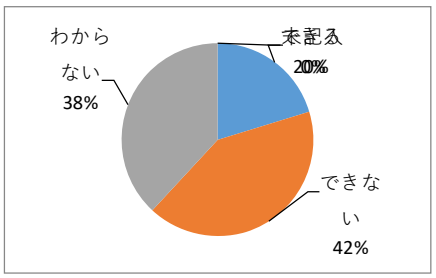


障がいがあることでの嫌な経験については、４４％程度の人が「ある」「少しある」と回答している。嫌な思いをした場所は「学校」が最も多かった。

8　災害時の避難等

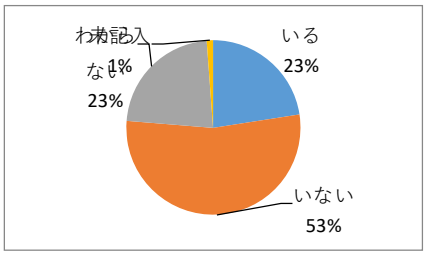
8-1　一人で避難

	人数	割合
できる	17	20.2%
できない	35	41.7%
わからない	32	38.1%
未記入	0	0.0%
合計	84	100.0%



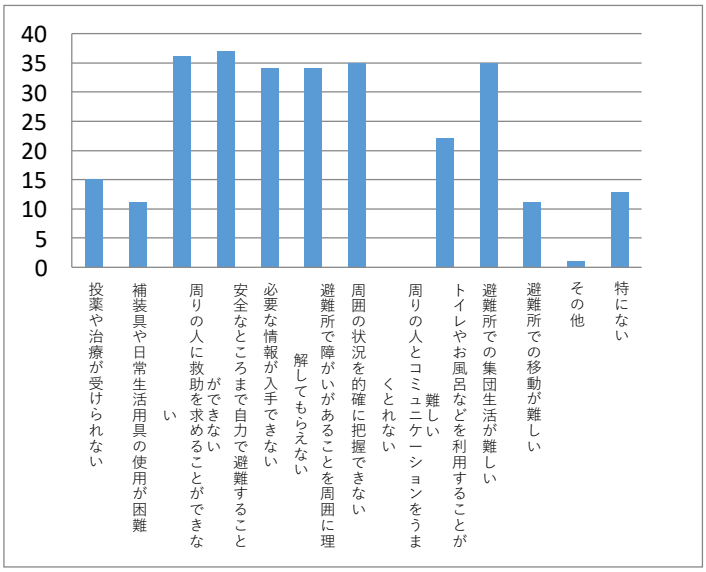
8-2　近所に助けてくれる人

	人数	割合
いる	19	22.6%
いない	45	53.6%
わからない	19	22.6%
未記入	1	1.2%
合計	84	100.0%



8-3　災害時に困ること(複数回答可)

	人数	割合
投薬や治療が受けられない	15	17.9%
補装具や日常生活用具の使用が困難	11	13.1%
周りの人に救助を求めることができない	36	42.9%
安全なところまで自力で避難することができない	37	44.0%
必要な情報が入手できない	34	40.5%
避難所で障がいがあることを周囲に理解してもらえない	34	40.5%
周囲の状況を的確に把握できない	35	41.7%
周りの人とコミュニケーションをうまくとれない	0	0.0%
トイレやお風呂などを利用することが難しい	22	26.2%
避難所での集団生活が難しい	35	41.7%
避難所での移動が難しい	11	13.1%
その他	1	1.2%
特にない	13	15.5%
未記入	4	4.8%



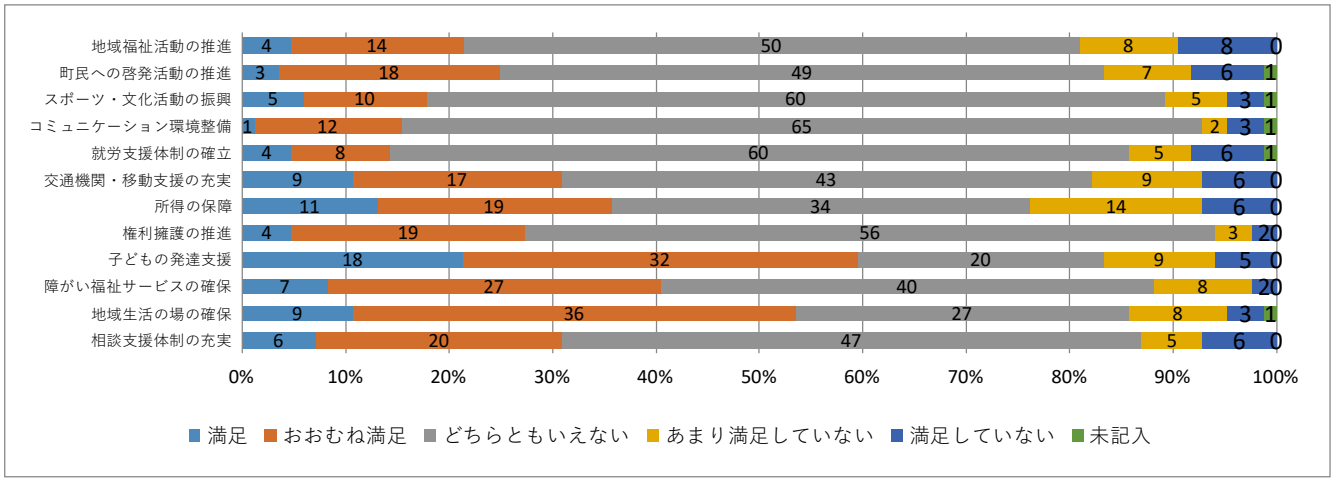
一人で避難できず、近所に助けてくれる人がいないと回答した人が２４人おり、また、8-3でも自力で避難できないと回答した人も３７人と最も多い状況である。

また、災害時に困ることとして「周りに救助を求められない」「周囲の状況を的確に把握できない」「避難所での集団生活が難しい」との回答が多かった。

９ 町の取り組みについて

9-1 町が行っている取り組みに満足しているか

	満足	おおむね満足	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	未記入
相談支援体制の充実	6	20	47	5	6	0
地域生活の場の確保	9	36	27	8	3	1
障がい福祉サービスの確保	7	27	40	8	2	0
子どもの発達支援	18	32	20	9	5	0
権利擁護の推進	4	19	56	3	2	0
所得の保障	11	19	34	14	6	0
交通機関･移動支援の充実	9	17	43	9	6	0
就労支援体制の確立	4	8	60	5	6	1
コミュニケーション環境整備	1	12	65	2	3	1
スポーツ･文化活動の振興	5	10	60	5	3	1
町民への啓発活動の推進	3	18	49	7	6	1
地域福祉活動の推進	4	14	50	8	8	0

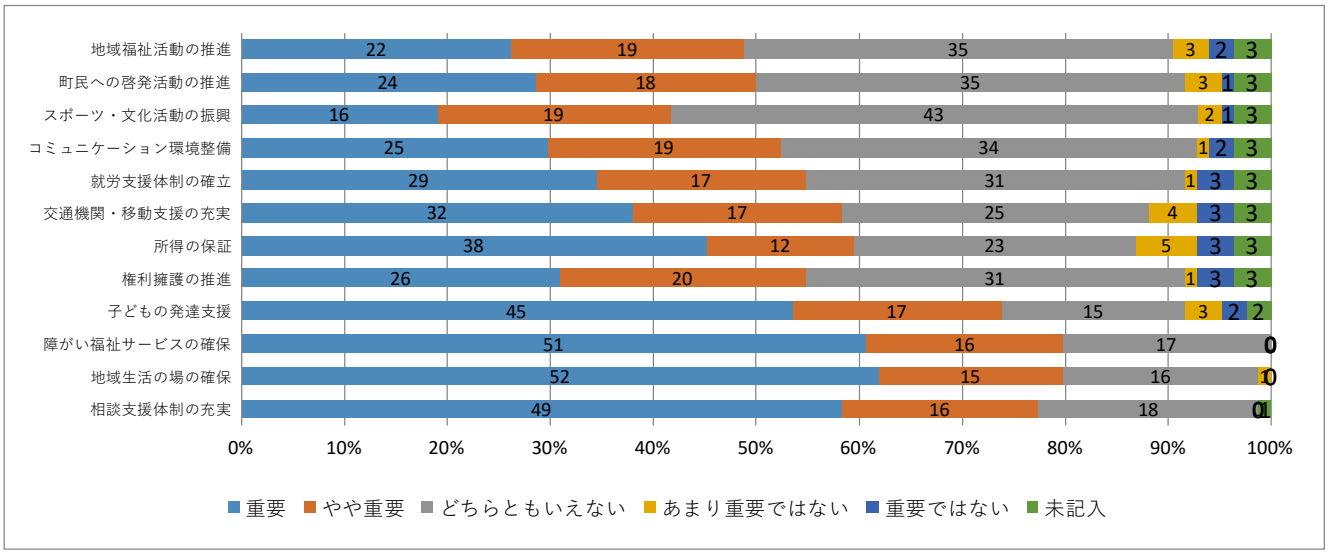


満足とおおむね満足を合計した割合は、「子どもの発達支援」「地域生活の場の確保」で５０％を超える結果となったが、「障がい福祉サービスの確保」「所得の保障」「交通機関・移動支援の充実」「相談支援体制の充実」の４項目を除く項目は、１０％～２０％代となっている。

また、「子どもの発達支援」「地域生活の場の確保」を除き、「どちらともいえない」と考えている人が

9-2　町が行っている取り組みで今後どれが重要になってくると思うか

	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない	未記入
相談支援体制の充実	49	16	18	0	0	1
地域生活の場の確保	52	15	16	1	0	0
障がい福祉サービスの確保	51	16	17	0	0	0
子どもの発達支援	45	17	15	3	2	2
権利擁護の推進	26	20	31	1	3	3
所得の保証	38	12	23	5	3	3
交通機関・移動支援の充実	32	17	25	4	3	3
就労支援体制の確立	29	17	31	1	3	3
コミュニケーション環境整備	25	19	34	1	2	3
スポーツ・文化活動の振興	16	19	43	2	1	3
町民への啓発活動の推進	24	18	35	3	1	3
地域福祉活動の推進	22	19	35	3	2	3



重要とやや重要を合計した割合では、「障がい福祉サービスの確保」「地域生活の場の確保」が同数で8割程度と最も多く、次に、「相談支援体制の充実」「子どもの発達支援」が７割を超える結果となった。

No	コロナで困ったこと(18歳未満)
1	当日すぐに検査できるとは限らないこと、急な学級閉鎖でうちの子は症状が無いのに、預け先は無い、仕事は休めないという状況が困った。
2	学童と放課後等デイサービスの併用ができなくなり預け先がなかった事。 たまたま職場の理解があり、連れて出勤できたが困る時はある。
3	学校に行けなくなると仕事にも行けなくなる事がとても大変でした。
4	急にマスクは外せない
5	療養中の買い物
6	コロナウイルスの流行で、マスクが必要不可欠になった事により、今まで以上に他者との関わりが困難になりました。 今では他者と関わることを諦め、塞ぎ込んでしまっています。 マスク不要の場であっても、マスクを外せなくなってしまいました。
7	自宅にいる時間が長くなり、息抜きが出来ず、お互いに衝突する場面が多くなった。外出する事が減り、子供が運動不足となり、体重増加に繋がった。
8	兄弟もいる為、長期の自宅療養は大変でした。 母が罹患した際は支援者がおらず体調が悪くても子供達の世話をしなければならずとても大変でした。
9	学校が長期にわたって休みになったこと
10	マスクが着用出来ない。消毒(手)を嫌がる。もともとの疾患もあり、体調不良の時は何が原因で体調が悪いのか判断が難しい。
11	学校で感染しました。今後5類になったとき、学校で流行っている等の状況がわかならくなるのかな…と思い、不安です。 自宅内は感染を広げないようにと皆、気が張っていてとても疲れました。
12	行動の制限
13	発熱外来をもっと増やしてほしい
14	子供が風邪をひいたら熱がなくてもお休みした方がいいとの判断になり、なかなか仕事へ行けませんでした。仕事はやめる事になり、収入がへったが、援助の対象とならなかった。
15	マスクができないのに、しなきゃ入れないと言われたこと。説明しても「決まりなので」の一点張り。マスク問題があちこちであり大変でした。
16	リハビリが休み(病院の休診)になることが多くあまりリハビリが進まなかった。
17	環境変わると対応が苦しい子だったので、コロナで沢山の変化があったので不安が強まり、今まで以上に親の支援が必要で生活サイクルが全て変わったこと。
18	子供が待機などで仕事との両立がむずかしかった。
19	医療機関にかかれない。在宅でこもりきりになり筋力などの低下、相談相手がいない、マスクが出来ないことの無理解、子供の介護負担が増えた。
20	かかりつけの病院で受診できず、持病、高熱で解熱剤すら出してもらえず、フリーダイヤルも繋がらず。障害と持病をもってる子を助けてくれる医療機関はないと確信しました。
21	学校生活の様々な制限。3歳以上の保育園児のお昼寝以外のマスク生活。
22	特にありません。
23	学校が臨時休業になった期間はストレスを感じたようで、夜泣きがひどくなった。入学してすぐに休業になった為、親子ともに学校生活に不安を感じた。
24	コロナ感染者が増えると病院に行くのが大変だった。子供3人小さいのがいると、病院で待つのも本当に苦労した。今、小児科が音更に一つしかない状たい、徳洲会は風邪症状があるとかんたんには見てくれないなのでいつも豊川はこんでるのでこまる。
25	遊べる場所がありません。室内の遊び場施設を作ってほしいです。体力をおもいっきりはっさん出来る場所が必要です。
26	病院の電話がつながらず、病気の薬の服薬とめつさましののみあわせなど、指示をもらうのに時間がかかり大変だった。 障害などで服薬している人専用のダイヤルがあれば助かった。
27	活動が減り、家の中で過したため、身体的な疾患になった。発達障害の場合リズムが大事なので、安全に配慮しつつも活動がとぎれない方が良かったなと思いました。
28	ニュースや周りがマスクをしている為、家族のみ公園等に行って遊んでもマスクをしてしまう。まっすぐ言われた通り行動してしまうので大丈夫だよと言っても「〇〇だからダメ」とか「先生が〇〇だからしないといけない」と言われたからと話してなかなかマスクから抜けれませんでした。
29	全員休まないといけない。買い物に行けないので食べ物がない。ずっーと家に居て家族の世話をして、ストレスがたまった。収入が減る。掃除や除菌を何回もして疲れる。
30	事業所がとつぜん行けなくなった事(スタッフや行ってる人がなった)子どものほうが厳しく、あれだめ、これだめと言って、コロナになるのは大人のほうばかりだった。
31	コロナワクチン後遺症になったから困りました。
32	遠くに住む祖父母に会えず頼れないことが多かった。子どものあそぶ場所が減ったこと。
33	ガマンをたくさんしてもらった事。今度はこどもらしく過ごして欲しい。
34	マスクが出来ないので困った

No	自由記載の内容(18歳未満)
1	音更小学校のトイレ、洋式が少なく困っている子はいないのでしょうか？ 過去にも、洋式トイレの要望はなかったのでしょうか？ 練習するにも、練習場所、タイミングもありなかなか難しいと思いますし、 発達に凸凹がある子、グレーゾーンな子は尚更…とおもうのですが。 凸凹ある子、グレーゾーンな子は増えているのに、生活しづらいままの環境を変えずにいるのでしょうか。 環境云々よりも、子供が成長すればいいと言われれば、それまでですがそれでは、子供たちを見捨てた行政ではないでしょうか？
2	児童であるので親と利用施設との関わりはもちろんだが、学校と利用施設も、もう少し結びつくような仕組みになっているといいのにな、とよく感じました。
3	学校、放課後等デイサービス、学童の連携が難しく、私自身仕事をしながら、全てを見きれず子ども本人にどれが今いい状況なのかの選択が難しい時があります。 放デイもいろいろあり、体験させたいがどこにどんな所があるのかを探すのも大変なので知識のある人に教えてもらいたい。以前役場で少し相談したが、ご自身で探してみたいな対応だったので、もう少し時間をかけて話しを聞いてくれる人がいたら非常にありがたい。
4	特になし
5	福祉関係や保育関係のサービスやサポートを充実させようという考えには賛成ですが、そこで働く方々の充実が最優先だと思います。今後高齢化が更に進んでいくことはわかりきっている事で、働く人間の負担が増えて行くのに人数や給与は変わらないではサービスの充実には繋がりません。まずは、福祉関係や保育関係のお仕事が給料面で魅力的な仕事であるという施策(町から給与サポートを行う等)を町として全力で打つべきだと思います。
6	大人同様、子どもも生きずらさを感じている子が沢山いる事を理解してほしい。ただ、ただ、理解してほしいです。 偏見や差別の無い世の中になってほしいです。
7	南鈴蘭に住んでいる為、ちょっとした手続きの際に役場まで行く事が負担に感じる(仕事をしている為、早退して行かなければならない) 木野支所でも、手続きが可能になれば負担軽減につながると思います。 週に2日でも良いので、障害福祉課の職員が木野支所に常駐していただけると手続きの簡便化につながると思います。
8	誰もが老いて死ぬまでに何らかの障がいと関わる事を意識出来たらいいのではと思います。 当事者やその保護者を障がい福祉係に採用するくらいしないと何も変わらないと思います。なんなら働きたいくらいです!! 自分が当事者になってから何かを動かすのはとても大変な事です。 障がい者基幹相談支援センターとかも全然知りませんでした。 町主催ので茶話会がなかなか開催されないから個人で開催したら「皆さんで開催出来るなら町での活動は減らしていく方向になるかなと思います。申し訳ないですけど個人で開催の茶話会のポスターは役場には貼れないです。」と言われました。 協力出来ないのに個人の茶話会が開催されたら町での活動減らすって不思議な考えだなと思います。 芽室町とかは町民の意見を反映しているので参考にしてみてはいかがでしょう? 音更町の取り組みは「とりあえず障がいを理解してやってる風」に見えます。図書館の自閉症啓発週間の展示も見ましたけど、展示しただけで誰の気持ちも見えてこないものでした。 当事者支援とともに、その家族への支援にぜひ力を注いで下さい。家族は疲弊しきって限界ですよ!! なかなか当事者とかでないと分からない世界だとは思いますが、意見が反映されることを願っています。
9	申請に行くと詳しくない方が対応した事があり二度手間になった事がありました。診断書など札幌の病院で書いてもらうのでできるだけ詳しい方に対応して頂きたいと思います。 子供を育てながら仕事もしているので様々な情報を分かりやすく提示して貰えるとありがたいと思います。 手続きは簡素化して貰えると嬉しいです。
10	相談できる窓口がよくわからない 事業所などを通してパンフレット等を置くなど皆が情報を知れるきっかけをつくってほしい 特に障害児を持つ親は、診断後何から手をつけたら良いかわからないと思っている人が多いと思う
11	学校で支援学級、放課後支援センターみらいをつかってますが、利用者が多く高学年になって日数が月に4回から2回に減り、高学年の支援が受けられない。 病院では、ADHDと診断されましたが、手帳を申請しても貰えないと言われ、でも本人は困り事があり、これから先、手帳も無いので福祉サービスを受けられないので、もっと日数を増やして手厚い支援を希望します。
12	気軽に相談できる窓口。障害のある子がどの様に大人になったかロールモデルの方を知る機会。家族の支援。きょうだい児の支援等があったらいいなあと思っています！！
13	今は分かりませんが家の子が小さい時は、ほとんど自分で調べて電話をして、見学に行ったり、知り合いの方に色々情報を聞いていました。幼い障がいをもつ子供をかかえる親御さんは不安がある中自分から情報を集めなきゃいけないのは負担が大きいと思います。なので役場へ行けばすべてのサービスや、療育の事業所（他の市町村ふくめて）が一目でわかる様にしていただきたいです。よろしくお願いいたします。
14	相談支援専門員の紹介や相談支援センターの紹介、情報提供を積極的に行って欲しい（民間の相談支援センターも含めて）発達障害のある子どもは温度変化（暑い寒い）に弱い傾向がある。環境を整える意味でも小中学校のエアコン設置をすすめて欲しい。費用の助成をしていただけることで充分なサービスをうけさせることが出来ており感謝しています。
15	医療費小学生以上の助成
16	子ども発達支援センターを増やしてほしい
17	自分はまだ利用していないのですが、相談事業所をもっと力を入れてやった方がいいのかなと。音更の方も皆帯広の十勝障害者相談支援センターの方が絶対良い！と変えてる人もいましたし、今後こちらにお世話になろうと検討しています。他のサービスはものすごく充実しているので勿体ないかなって思います。あとR4年度からなのか、対応がちょっと残念な時があってどうしたのかなって思いました。音更ももう少し重度の子供を対応できる施設ができたらいいな、と思います。
18	発達障害の支援がある高校又は高等養護学校がどこも遠く、少ないので増やしてほしい。

No	自由記載の内容(18歳未満)
19	帯広では受けられるサービスが音更では受けられないことがあったが、納得のいく説明ではなかった。担当者が誰から聞いたのか、その人に直接連絡して良いか等、つめよられる言い方で怖かった。私達は今後も長く医療機関やリハビリと付き合っていかなければいけないし、それはもちろん音更町ともなのですが、生活しづらくなることが不安で遠慮することもあります。そういう患者・家族がいることも理解していただけたらいいなと思います。
20	音更町の取り組みへの姿勢はありがたいです。もっといろんな人の声が届いて、対応していけるように変わっていけることに期待します。障がいの有無に問わず、子を支援する仕事の方々が増員できるように待遇等見直しお願いします。そうするとうちの子のように困っている子が将来一人でも少なくなれるかと。祈ってます。
21	利用料金がどんどん値上げして家計の負担が増えている。病院にかかる機会も多いため、医療の助成ももう少し考えてほしい。
22	18歳以上になったあとの行き場所がない。このまま音更町に在住するのはむずかしい。地域でくらせない。18歳以上の子供たちの行き場を作って欲しい。親も年を取り自分の子をいつまで介護、育児できるか分からない。その時の受け皿が欲しい。音更町は他の市町村よりも福祉は充実しているし、相談も乗ってくれるのでありがたいので今後も期待しています。
23	親の収入が多い少ない関係なしに装具、車いすなどの助成をしてほしい。農家だと全額自己負担ってひどすぎます。あくまでも収入があっても、そこから経費を引くとなんものこらないです。収入だけで判断しないでいただきたい。
24	発達の不安があり相談したところすぐみらいに通えるようにして下さりとてもありがたかった。みらいがとても良い。子も成長でき、親の相談にも親身にのって下さり、なくてはならない機関だと思う。音更は福祉サービスに柔軟で手厚いと思う。
25	我が家は転勤で引っ越してきたので、まわりに知人が誰もいないので親子で交流できる場があれば、もう少し安心して子育てできると思います。
26	どこに相談したら良いかわからない。相談しても、こちらは何もわからないのに「決めるのは家族だ」と言われ、結局ほかの選択肢なども思いつかないので、言われるがままになってしまった。発達検査を受けても、そこからどのように動いたら良いかわからなかった。受診するべきなのか、このままで良いのか、サービスを受けるのか･･･もっとわかりやすく、親身に相談に乗ってくれる場所を教えてほしい。悩み事はどこで聞いてもらえますか？
27	今までどおり、学校での支援をその子にてきした支援をつづけて欲しい。家の子は授業にはついて行けてるので、普通クラスで授業させてもらい、必要な時だけ支援級に行かせたい。
28	たった一人の心ない対応で悲しくなるので、忙しく大変だと思いますが、でんわなどの対応でも、わずらわしさが伝わる感じはやめて頂きたいです。ほとんどの方はとても親切です。ありがたく思っています。
29	全体的に障がいのある人の選択肢が少ないので多ければ多いほど安心できるのでどんどんと色々な選択肢をふやしてほしいなと思います。
30	音更町はとても充実していると思うが、どこに相談場所があり、誰に相談すればよいのかをわかりやすくしてほしい。最初こども園から発達の遅れを伝えられたとき、どうすればよいのかわかならなかった。（病院に相談してもまだ小さいからといわれ、療育も知らなかった）誰もはっきり言わないので自分の子がどんな場所に行けばよいのかもわかならかった。こども園の先生はいやみしかいわなかった。ごり押しで普通園に通わせたいわけではないのに。
31	ケアマネージャーまたはそれを要する施設の数を増やしてほしい。施設の立ち上げ補助など民間施設の拡充をお願いします。
32	このアンケートを実施してみて、様々な取り組みをされているのだなーと知りました。まだ知らない事がたくさんあるという事が分かりました。様々な取り組みをして頂いても、個人が知ろうとしなければ周知しないという事もあります。我が子はこのようなサービスを受ける程ではなく、いってみればグレーゾーンの子です。このグレーゾーンというのが…受けれない…理解してもらいにくいというのがいつもあります…グレーゾーンの子が利用できる取り組みもあれば、もっとありがたいと思います。
33	学校との連携をしっかりとれる様にして欲しい。教師が率先し嫌がらせをする時点で不信感が強い。子のネガティブ発言が強くなっているので、周りと上手になじめる様、相手の理解や自身をコントロールできる力がつけられる様に適した福祉にみちびいて欲しい。
34	発達障害で内服治療や放課後等デイサービスで毎月出費があります。町からの補助で通所分はいくらか補われますが、それでも全額ではありません。仕事の休みを調整して通所している事業所に連れていっています。2kmないので燃料代も出なくなってしまいました。子どもを連れて2kmは歩ける距離なのでしょうか。家庭の中でも、親が発達障害があることで定型発達の子よりも手をかけてやらないといけない状況下であることへの理解、親の時間・金銭的な負担をもっと軽減する取り組みをして頂けるとありがたいです。
35	支援学級のことを軽視しないでください。学級担任をできない様な人の受け皿にしないで下さい。教育の方かと思いますが、教員が不足しているようなら、福祉の方でサポートが受けられる等の支援があるとすごくたすかります。障害児の学習は軽視されすぎです。学習に支援が必要なのに学校で問題なく過ごせればよいという雰囲気さえ感じます。学校外での学習（塾や宿題）を極端に嫌がることもあります。学校での学習がもっと充実してくれていれば、親としてもすごく助かります。
36	場面かんもく症についてまだまだ知られていないのでもう少し学校等で授業して理解して欲しい。高学年、中学になるといじめ等が出てくるので先生や生徒さんの理解をしてもらい学校生活を楽しく過ごすにはと常に考えています（先生の理解だけではなかなか難しいです）ただ、自分の子供について話したくない家庭もあると思うので、その人その人に合わせて欲しいですね･･･今は子供の説明をしながら、いろいろな場所で連けいをして理解される様に努力してます。
37	相談できる場所より相談できる人材がいないと思う。みんなわからなくて時間だけがかかるシステムを変えるべきだと思う。頼る気に正直なりません。
38	施設を作ってほしい。病院・療育・養護学校も帯広に通っているので負担が多い。
39	グループホームを利用してみたいが何もわからない。
40	子どもでもショートステイが出来る所を作ってほしい。
41	支援高校が音更から遠いところにしかないのが残念です･･･不登校の子が行きやすい高校が音更にもあったらなあと思います、通信の学校など･･･
42	発達支援センターに空きがなく、複数通うことが難しい。子供たちが安全に過ごせる場所を増やして欲しい。
43	今は気軽に相談できないので、相談できる場所（人）を増やしてほしい。専門（資格のある）の方だけでなく、実際に子育てしているお母さんから話を聞けたらと思う。
44	発達支援センターの送迎など、各自でではなく運営側でやっていただけたら働いている保護者にとってはありがたい。（送迎のために仕事を休んだり、早退したりしているので）
45	親亡き後のことが心配。医ケアが必要な人達はどの様な所にいる等の情報がほしい。